

タイトル	共に協力して活動する、市民による「川の環境回復と環境学習」
団体名	比企の川づくり協議会と、比企自然学校（川の学校）

研究・活動内容

1. 都幾川^{さと}くらかけ清流の郷で、「あつまれ！くらかけっこ！」の協働活動

主催者は東松山市環境保全課であり、H29年度より市観光協会・比企自然学校の協力を得て、市内の小学生とその保護者を学校経由により募集し、約120名の水辺の生物採取体験や川遊び、鞍掛山の里山散策と樹木観察を行なってきた。併せて、周辺の景観（遠景：日光連山、近景：嵐山歴史公園）の眺望観察を、双眼鏡などを使用しながら行なった。

当地（郷）は、H24年から県行政と住民の代表が4年にわたって意見交換を重ねて、「都幾川のまるごと再生」を計画し、H28年にオープンした魅力ある河川景観空間の施設です。台風19号により、土砂堆積や倒木・流木被害も著しかったが、国・県・市による復旧工事が進み、護岸改修や床固工、飛び石工、親水施設（カヌー乗り場の親水護岸）なども回復されており、BBQ場やバイオトイレの復旧工事もほぼ完了し、我々の活動復活も家族連れで賑わうことが期待できそうです。

2. 台風19号被害状況と復旧工事等の、河川見学会と水害シンポジウム

R元年10月12日（土）、台風19号が日本を襲い、東松山市では都幾川、新江川、九十九川が氾濫し、これらの川の流域で死者2名、道路の冠水、家屋の損壊・浸水などの甚大な被害を受けました。その直後に、比企自然学校所有の軽トラ2台および会員軽トラ等をフル動員して、約2ヶ月間、復旧活動に協力し災害ゴミ収集活動ボランティアを行なった。

一方、比企の川づくり協議会では、毎年実施している河川見学会を【緊急開催】として計画し直し、午前中は、国・荒川上流河川事務所、県・東松山県土整備事務所、市・商工観光課による、災害現場での被害状況と復旧・再生工事等の説明、午後には約70名の参加者による、水害シンポジウムを開催し、河川工学者・魚類等の研究者・NPO荒川流域NETからの講演者を招き、市民討論会を開催した。

3. 堤防と水上からの、「第17回ふれあい市野川クリーンアップ作戦」に参加

埼玉に清流を取り戻すという埼玉県の方針にもとづき、16年前に東松山ロータリークラブと東松山むさしロータリークラブを活動主体に、東松山県土整備事務所（河川砂防部）を事務局として発足し、市野川の清掃活動と地域間交流を続けてきている（毎年、約650人の参加）。

比企の川づくり協議会は、第1回作戦より「川に親しむ交流（市野川の生物採取・展示）」を担当し、東松山市・吉見町の自治会、小・中学生、地元企業の方々へ、身近な市野川の生態や生きものを紹介してきました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴ってあらゆる事業が中止になったことで、規模縮小による事業の実施（生物採取・展示は不可）と、新・埼玉県プラごみゼロウィーク登録（30名未満）を行なって、「3密」を回避した水上からのプラごみ採集を少人数で実施した。

比企自然学校が自ら製造、所有するカナディアン・カヌー2艇とカヤック1艇を、市野川桜堤の水面にて往復させながら、水面・河畔林・護岸に浮遊や付着するプラごみの採集活動を行なった。

比企の川づくり協議会 <https://hikinokawa.hikiws.com/>

比企自然学校 <http://hikishizengakko.org>

1. 都幾川^{さと}くらかけ清流の郷で、「あつまれ！くらかけっこ！」の協働活動



■清流の郷で、親子生き物観察会（ミニ水族館）。 ■川あそびに集まった、市内の児童達（過年度）。

2. 台風19号被害状況と復旧工事等の、河川見学会と水害シンポジウム



■軽トラを駆使して災害ゴミ収集のボランティア活動（約2ヶ月）。

■（国）荒川上流河川事務所と、（県）東松山県土整備事務所参加による被害状況説明と復旧工事等の河川見学会。

3. 堤防と水上からの、「第17回ふれあい市野川クリーンアップ作戦」に参加



←■過年度のクリーンアップ作戦。
（約650人の参加）

- ・市野川左岸河川敷での開会式
- ・市野川の生き物採集と展示。



■コロナ禍で「3密」を回避しながら、堤防と水上からプラごみ採集活動。

■河畔林や水際にも、多くのプラごみが残っていた。